

背景：ヘブル人は、クリスチャンになっても、なお自分の内に残るユダヤ教に戻ろうとしていた。

※神と人の仲介者の大祭司が、おられなければ決して偉大な神に近づけない事実を深く自覚して、本日の箇所を味わいたい。もし神に近づけないなら、真の救いはない！

I 旧約時代の祭司職と別の部族から大祭司になられたイエス。

民はレビ族の祭司職に基づいて律法を与えられました。もしその祭司職によって完全さに到達できたのなら、それ以上何の必要があって、アロン（レビ族）に倣ってではなく、メルキゼデクに倣ってと言われる、別の祭司が立てられたのでしょうか。

…私たちがこれまで語って来た方（イエス）は、祭壇に仕える者が出たことがない別の部族（ユダ部族）に属しておられます。私たちの主がユダ族から出られたことは、明らかですが、この部族について、モーセは祭司に関することを何も述べていないのです。もしメルキゼデク（キリストの型、象徴の人物）と同じような、別の祭司が立つなら、以上のことはますます明らかになります。

II 大祭司キリストの偉大さ。私達にとっての素晴らしさ。

1. 「その祭司は、肉についての戒めである律法にはよらず、朽ちることのない、いのちの力によって祭司となったのです」：16。

旧約の祭司や大祭司と違い、真の大祭司（神と人の仲介者）イエス様は、朽ちる事のないいのちの力（復活の命、永遠の命）による大祭司。

2. 「前の戒めは、弱く無益なために廃止され、——律法は何も全うしなかったのです——もう一方では、もっとすぐれた希望（真の大祭司キリストによる完全な救い）が導き入れられました。これによって私たちは神に近づくのです」：18, 19。

偉大な大祭司イエス様は、さらにすぐれた希望（イエス様の十字架により、完全に私達の罪が赦され、偉大な神に近づける希望の道となられた恵みの希望）であられるお方。

3. : 20, 21→レビ系の祭司のように家系によってではなく、御父の誓い（詩篇110：4）で祭司となられたイエス様。神の誓いがあれば、誰も打ち破る事は出来ない。

4. : 22→さらにすぐれた契約（神と人の救いの関係）の保証である大祭司のイエス様。

つまり、イエス様は、私達の保証人として、不完全な私達の代わりに、完全に律法を守り、十字架で死に、私達の為の救いを完成された。

5. : 24→旧約時代、人間の祭司は、いつかは死ぬ為に、次から次へ代わった。

しかし、キリストは、真の神であられ、死から復活され、永遠に存在されるので、神と私達の仲介という祭司の務めは、不変であり、安定している。

6. 「イエスは、いつも生きていて、彼ら（私達）のためにとりなしをしておられるので、

ご自分によって（原語：を通して。直接自分で神に近づける人は、一人もいない。私達の数えきれない罪を完全に十字架で償われた主の御名を通してのみ、偉大な神に近づき祈り、礼拝ができる）神に近づく人々を完全に救うことができになります」：25。

主イエスを信じるなら、どんな人でも救われ、赦され、神に近づける。ハレルヤ！

神と人の仲介者、大祭司、執り成し手がおられなければ、罪人の私達は、決して救われず、神に近づく事も、祈る事も、礼拝する事も出来ない。今、主の恵みで神に近づける事を感謝したい！

7. 「イエスは、いつも生きていて、彼ら（主を通して偉大な御父に近づく私達）のためにとりなしをしておられる」：25。何という心強い恵みか！

その実例：ペテロの為のとりなし（「わたしはあなたのために、あなたの信仰がなくならないように祈りました。ですから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」ルカ22：32）、主の大祭司としての祈り（ヨハネ17章）、

「だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです」ローマ8：34の約束。

主は、弱く、罪深い私たちの為に祈って下さり、私達が正直に罪を神に告白する時、その祈りを天で御父に取り次いで下さる。取り次いで下さる仲介者、大祭司の主がおられなければ、私達が何万回祈っても、偉大な御父には、届かないのです。

私達が、主の御名を通して、罪の告白の祈りをする時、御父は、深い愛と主の十字架の完全な償いの故に、私達の罪を赦して下さる。

御父と御子イエスの心は一つ。御子は優しく、御父は厳しいのではなく、共に、義（罪は罪として正しくさばく）と愛（深い憐れみで赦す）のバランスあるお方。

- 8、「敬虔で、悪も汚れもなく、罪人から離され（罪人を愛し赦されたが、主は、罪を犯されなかった）また天よりも高く上げられた（天の御父の右の座に着かれた）大祭司（神と人の仲介者）こそ、私たちにとってまさに必要な方です」：26。

私達にとって、この方こそ、正に必要なお方。

イエス様の恵みを当然と勘違いし、偉大な神に近づく恵みを当たり前と思ってはならない。

実は、これは、驚くべき恵み、奇蹟である！

イエス様と聖書なしには、誰一人、神とは、どんなお方かを知り得ず、信じる事も出来なかった。そして、たとい偉大な神がおられると分かったとしても、罪深い人間、私達は、主の恵みなしには、誰も偉大な神に近づく事は出来なかった。滅びの暗闇しかなかった。

大祭司イエス様が与えられた恵みを感謝します！

- 9、「イエスは、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のために、次に民の罪のために、毎日いけにえを献げる必要はありません。イエスは自分自身を献げ、ただ一度でそのこと（私たち人間の罪の完全な償い）を成し遂げられたからです」：27。

旧約の大祭司は、動物をささげた。

イエスは、いけにえの動物ではなく、自分自身（一度も罪を犯したことの無い完璧ないけにえ、供え物、罪のない十字架の聖なる贖いの血、命）を十字架に献げ、ただ一度で（私達の罪の為に、ささげられたご自身といういけにえ、供え物が、究極的に完全なものであり、繰り返しや、やり直しを全く必要としない、の意）、私達の贖い、救いを成し遂げられたお方。

- 10、「律法は、弱さを持つ人間たちを大祭司に立てますが、律法の後から来た誓いのみことばは、永遠に完全な者とされた御子を立てるのです」：28。

想像を絶する苦しみを味わい、永遠に全うされた救い主、大祭司なるイエス様を心から感謝します！